

Moodle などの活用で、 目標言語であるスペイン語の インプットを増やすことができた

第二言語習得の考え方では、目標言語の習得には言語サンプルであるインプットが大量に必要であるとされ、実際にコミュニケーションできる力を習得するには、その言語を使いながら学ぶ形が望ましいといわれる。そこで、Moodle やオンラインツールを活用し、学習・視覚的なサポートを得ることにより、授業の使用言語をスペイン語にし、コミュニケーション力の向上が実感できたという。



中島 さやか
文学学院 准教授

オンライン学習ツール Quizlet で 自主学習を促す

この授業はスペイン語の初学生を対象に文法の学習を行うものだが、教員は授業内で日本語を話さずシンプルなスペイン語だけを話して進行する。「最近を読む・聞く・話す・書くの4技能をバランスよく身につけたいという学生が増えてきたこともあり、文法の授業であっても、コミュニケーション力につながる授業をしたいと考えました」。

そこで工夫したのが、試験や課題など授業に関する情報は日本語で Moodle に載せたものを授業外に読んでもらい、単純に覚えることや復習など各自で学習すべきことは、PC やスマホを使って授業外に取り組んでもらうということだ。「その結果、授業内では学生たちの反応を見て理解度を確認しながら進めることに集中でき、授業内にスペイン語でやりとりする時間を増やすことができました」。

授業外での活動には、Quizlet というオンライン学習ツールを導入。これはオンラインで使える単語カードのようなもので、登録した単語をクリックすると、意味の確認や、音声の再生、自己テストなどができる。教員側で単語集や授業で使う教室言葉の表現リストを作成して URL を学生にシェアし、各自がアクセスして自主学習する。「自分で星をつけたものだけを繰り返し練習したり、順番をシャッフルしたり、音声を聞いて入力したりする練習もできます」。このツールは PC でサイトにアクセスして利用するだけでなく、スマホのアプリとしても利用できる。学生が日常使い慣れたスマホなら、ちょっとした隙間時間を利用していつでも手軽に取り組める点も都合が良いようだ。

聞き取り練習や練習問題も、Moodle なら授業外に 各自のペースで取り組める

Moodle 上の課題に聞き取り用音声を載せたことも効果があったと感じている。学習したポイントを含む質問をスペイン語の音声課題にして、聞いて答えを考えてから次の授業に参加させていた。テキストに頼らないで質疑応答する練習なので、テキストは授業で扱った後に確認用として Moodle にのせていた。「Moodle だと各自が分かるまでスマホからでも何度も聞くことができます。何回で聞き取れるかは学生によって差が大きく、教場でみんなが分かるまで繰り返すと退屈する人も出てきてしまうため、あまり時間をかけられません。Moodle で各自のレベルに応じて効率的に学習できたおかげで、聞き取り能力も向上したように思います」。

Moodle では小テスト機能も重宝している。「自動採点できるのがとても便利です。問題をつくるときも、似たような文章で少しずつパターンを変えたり、段階的に難易度を上げていったりということがやりやすいですね。単調になりがちな動詞の活用も、聞いて答えるクイズ形式にし、自

動採点の後、正答率の低いところを共有して復習する等、単調さを緩和しながらよりインタラクティブにすることも可能です。

小テストは毎回授業で行う成績にも反映させるもののほか、学生が自主的に何度でも利用できる練習問題用も用意した。この練習用の小テストは、各課のコンテンツに収録するだけでなく、全課分の練習問題だけをまとめてアクセスしやすいようにもした。

このスペイン語のクラスは1学年で10個設定されており、中島准教授はそのコーディネーターを務めている。そこで、全クラスの履修生が利用できる共有スペースを Moodle 上の非正規科目として設定し、全員に知らせたい情報と合わせてこの問題集も格納しておいた。「本来の目的は、非常勤の先生方の負担軽減も考えて、問題集を他のクラスの学生にも利用してもらうことでした。でも結果的にはうちのクラスの学生も利用していて、あとから復習として利用するときに便利だったようです」。

授業後に日本語で質問できる時間も設け、 不安に対応

2020年度の授業では、対面の代わりに ZOOM でのライブ配信となった。いわゆる講義動画などは使わず、リアルタイムで解説したり、いっしょに発音しながら活用を確認したり、練習問題を解いたりと教場と同じような形で進めた。「オンラインだと Quizlet や小テスト等の Moodle の画面も共有しやすいのが良かったです」。

教場で行っていたときと同様、ZOOM でも学生を指名して答えさせることもした。そこで取り入れたのが「発表順番決定ツール」という無料サイトだ。あらかじめ学生の名簿を入力しておく、授業内でクリックするだけでランダムにひとりの名前が表示される。教員の PC 上でこれを行い、学生にはデスクトップ共有する。ひとりの学生が答えた後、次にあてる学生に「前の文章の主語だけ変えてみて」というような指示をあらかじめ出しておくことで、他の学生が答えている間も真剣に聞いているように促した。

スペイン語で進行していく授業では、理解できない学生が置いていかれてしまうリスクがある。教場ならまわりの学生に確認するなど、お互いに助け合ってカバーすることもできたが、オンラインではそれができない。そうした不安に対応するために、ZOOM での授業終了後に残って日本語で質問できる時間を設けて対応した。「Moodle のメッセージ機能で質問してくる学生もいました。こちらは24時間いつでも聞ける点が使いやすかったようです」。

対面授業が可能になれば、ZOOM で行っていた部分は教場に戻すことになるが、Moodle や Quizlet は今後も使い続けていくつもりだ。「オンラインでもスペイン語で進める授業ができたのは、Moodle やオンラインツールのおかげです。スペイン語を実際に使う時間が多くなり身近に感じてもらったことで、コミュニケーション力は前年度より上がったように思います」。